2021年 12月19日（日） 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

ルカによる福音書 2章1−7節 「 イエスの誕生 」 髙橋彰

◆イエスの誕生

2 1 そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。2 これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。3 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。4 ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。5 身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。6 ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、 初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

聖書 新共同訳（C）日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987,1988

2021年、クリスマスおめでとうございます。「クリスマス」はキリスト（Christ）を礼拝する(mass)という意味の言葉です。その意味では教会は毎週クリスマスを祝っているとも言えます。ただ一人のみ子をお与えくださった神の恵み、救いの出来事にわたしたちができるのはどのようなことでしょう。ただ神を賛美し、礼拝することくらいしか思いつきません。神がなされたことをかけがえない貴いこと、わたしたちに意味あることとして、喜んで、大事に受け取り、ほめたたえたいと思うのです。人から受ける贈り物を喜んで感謝する時のようにです。

わたしたちは毎年イエス・キリストの誕生を覚えて礼拝し、繰り返しマタイ、ルカによる福音書からイエス誕生の出来事の物語を、またヨハネによる福音書やパウロの手紙などからイエス誕生の意味を伝える言葉を読み返します。それらは、イエスが何者であるか（Who）、神はイエスを通して何を表わされ、なされるか（What）を伝えています（たとえばマリアへの受胎告知や羊飼いたちへの天使の使信の中にあるように）。そして、今日のテキストはイエスが、いつ（When）、どこに（Where）、どのように、かを伝えています。

1−5節はルカが特別に記した住民登録のエピソードです。同時代の他の諸文書の記録と照合するとズレもありますが、ユダヤの人びとが当時ヘロデ王の支配（1:5）とローマ帝国の占領統治（2:1）という二重の支配下で生きねばならなかったことがよく表されている記述です。そしてそのような世界の歴史全体の文脈の中で、強制的に移動させられる旅人という不安定な状況にある貧しい弱者の身の上の人びとの一人となり、辺境の小さな村ベツレヘムで、イエスは誕生したと、ルカは記します。ヘロデやアウグストゥスと非常に対照的です。しかしその方こそが「民全体」（2:10）に喜びをもたらし、全ての人のために生まれた救い主だと証言するのです。

住民登録による移動は、「ナザレのイエス」（1:6,4:34）と呼ばれたイエスの出自の伝承と、ダビデの出身地ベツレヘムからメシアが現れると、当時のユダヤの人びとに広まり期待されていた伝承とを結び合わせるエピソードになっています。

ルカ1，2章は天使が登場するなど奇跡的な出来事が起こる一方で、6節のイエスの誕生についてはシンプルに記されます。他の人びとと同じように、一人の人間として生まれてきたというかのようです。「初めての（男）子」は、神の祝福を受けた長子、神にささげられる子であることを記しています。くるまれた布はおむつでもあり、当時の赤ん坊に普通に施される状態でした。しかしその一人の赤ん坊が寝かされたのは「飼い葉桶」でした。普通に生まれた赤ん坊は、普通でない状況、「場所」（トポス）がない事態に追い込まれていたのです。宿屋（カタリューマ）は21:10−12の「客間」と同語です。ベツレヘムの家に、家人たちと、移動してきて滞在していた人びと人がいっぱいで窮屈な中、マリアはその家や同宿の女性たちに助けられながら子を産んだ状況が想像されます。そのように、ひしめき合い押し込められ、押し出される人びとが世界にいる。イエスは生まれたその日から居候となり、社会で追いやられた者たちと立場を共有するかのように、その身を置かれたのでした。わらを敷いてできるだけ柔らかく暖かくしつらえられた飼い葉桶のベッドは、その場所での受けられた精一杯のもてなしでした。

イエスが身を置かれた場所から、神は世界を向き合われました。強制的な世の権力と支配に追いやられた貧しさのしるしの飼い葉桶の周りに生きる人びとと共に神はおられ、平和的に救いのみ業を成し遂げて行かれます。